

緑化木情報



第53回愛知県緑化樹木共進会 「農林水産大臣賞」 ラベンダー（グロッソ）

目 次

県内の緑化木生産状況 1
緑化工事における緑化木需要状況 2
植木センター情報（市場調査） 4
〃 （調査研究） 6
第53回愛知県緑化樹木共進会 12

◆ 生産状況調査結果 ◆

県内の緑化木生産状況

愛知県では、1970年（昭和45年）以来県内の緑化木生産状況を調査しています。
2025年実施の調査結果の概要は次のとおりです。

1 調査方法等

調査対象期間を2024年10月1日から2025年9月30日までとして、県内の緑化木生産者を対象に調査員による聞き取り等を実施しました。

2 生産面積（図-1）

2025年9月30日現在の緑化木の生産面積は13,103.7aで、対前年比9.3%の減少です。2016年度に比べ24,495.5a、65.1%の減少となっています。

種目別では、常緑広葉樹、低木性樹木、落葉広葉樹、針葉樹の順になっています。

3 生産本数（図-2）

2025年9月30日現在の緑化木の生産本数は6,282.4千本で、対前年比5.7%の減少です。2016年度に比べ13,960.6千本、69.0%の減少となっています。

種目別では、常緑広葉樹、低木性樹木、落葉広葉樹、針葉樹の順になっています。

4 出荷本数（図-3）

2025年9月30日現在の緑化木の出荷本数は2,682.7千本で、対前年比5.6%の減少です。2016年度に比べ4,809.0千本、62.4%の減少となっています。

種目別では、常緑広葉樹、低木性樹木、落葉広葉樹、針葉樹の順になっています。

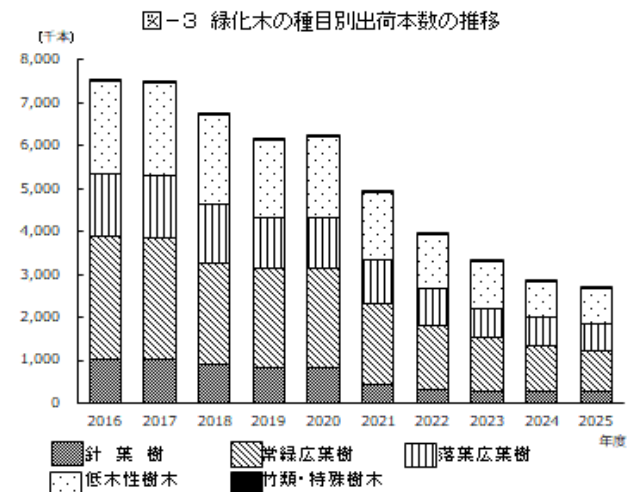
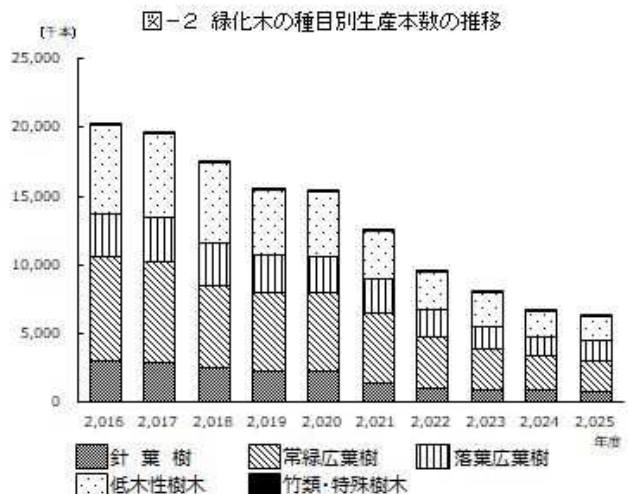
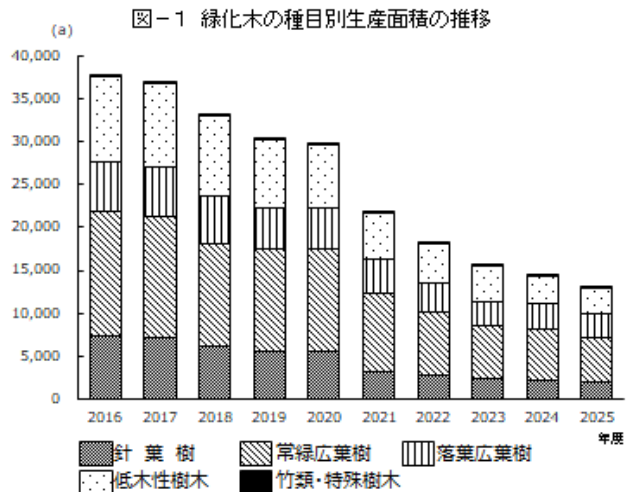
5 生産者数（表-1）

2025年9月30日現在の緑化木の生産者数は759戸で、対前年比9.9%の減少、2016年度に比べ58.4%の減少です。

事業体別では農業生産者が98.0%を占めています。また、50a未満の生産者が84.5%を占めています。

6 事業体別生産面積（表-1）

2025年9月30日現在、緑化木の生産面積の93.3%を農業生産者が占めています。



表－1 緑化木の生産面積規模による事業体別調査結果

区分 事業体		緑化木の生産面積規模による区分										合計	
		10a未満		10a以上 20a未満		20a以上 50a未満		50a以上 100a未満		100a以上			
		生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積		
農業生産者		戸 320	a 546.1	戸 212	a 2,262.4	戸 100	a 2,243.1	戸 87	a 4,525.9	戸 25	a 2,651.8	戸 744	a 12,229.3
農 業 者 以 外	会社	5	0.3	1	15.2	2	50.1	2	109.5	3	590.1	13	765.2
	組合	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	地方公 共団体	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	1	20.0	1	89.2	0	0.0	2	109.2
	小計	5	0.3	1	15.2	3	70.1	3	198.7	3	590.1	15	874.4
合計		325	546.4	213	2,277.6	103	2,313.2	90	4,724.6	28	3,241.9	759	13,103.7

◆ 需要動向調査結果 ◆

緑化工事における緑化木（グランドカバーを含む）需要状況

愛知県では、1973年（昭和48年）から県内の緑化（造園）工事業者を対象に、緑化工事に使用した緑化木の仕入れ方法、用途などについて、毎年調査を実施しています。

2025年度調査の結果の概要は次のとおりです。

1 調査対象業者数等

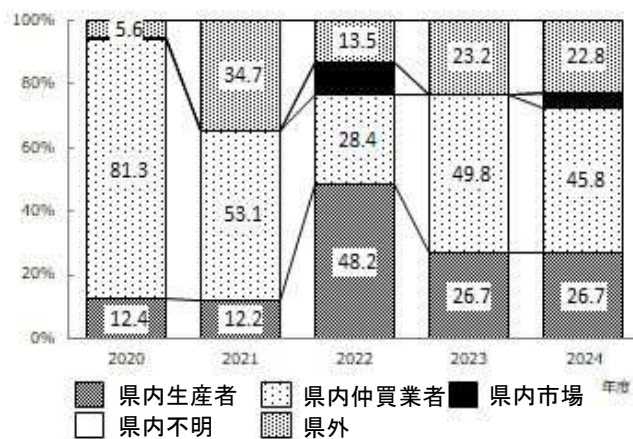
調査対象期間は2024年4月1日から2025年3月31日であり、県内の造園業者50者から回答を得て、集計しました。

2 緑化木の仕入内容（図－4）

仕入本数を県内と県外からに分けてみると、県内：県外＝77：23の比となっており、県内仕入れの割合が高くなっています。

仕入れ先別で最も多かったのは県内仲買業者で45.8%、次いで県内生産者26.7%です。

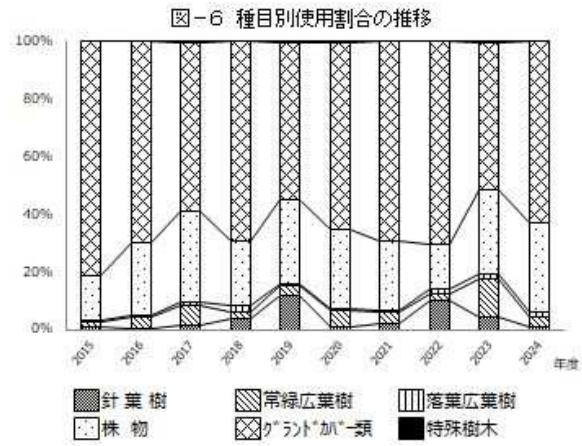
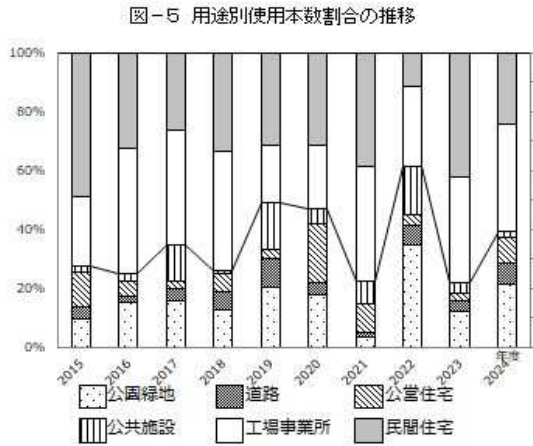
図－4 仕入先別の仕入割合の推移



3 県内緑化工事における緑化木の使用状況（図-5, 6）

県内の緑化工事における使用本数を公共工事と民間工事の使用本数の割合でみると、公共工事：民間工事＝39：61の比となっています（図-5）。

種目別では「グランドカバー類」と「株物」が、それぞれ63.1%、30.9%となっており、この2種目で全体の94.0%を占めています（図-6）。



4 県内緑化工事における主な樹種の使用状況（表-2）

2024年度の使用本数割合は表-2のとおりであり、上位5樹種で全体の58.7%を占めています。

表-2 樹種別の使用本数割合の推移

単位：%

年度 順位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1	ジャノヒゲ類 47.3	ジャノヒゲ類 23.0	ジャノヒゲ類 10.9	ジャノヒゲ類 19.9	ヤブラン類 14.7	ジャノヒゲ類 19.5	ジャノヒゲ類 13.3	ヒベリカム類 17.8	ジャノヒゲ類 15.1	ジャノヒゲ類 21.7
2	ササ類 8.0	ツツジ類 8.9	ツツジ類 9.0	シバザクラ 14.5	ジャノヒゲ類 14.3	ツツジ類 8.0	ヤブラン類 9.1	ヘデラ類 10.8	ツツジ類 12.1	ツツジ類 16.4
3	ヤブラン類 7.7	ヘデラ類 7.9	ヘデラ類 6.3	ツツジ類 7.4	クロマツ 11.0	ヒベリカム類 7.6	ササ類 9.0	ジャノヒゲ類 8.9	サザンカ 7.3	ヤブラン類 8.4
4	ツツジ類 6.0	ヤブラン類 6.7	ヤブラン類 6.1	ヤブラン類 6.6	ツツジ類 9.7	シバザクラ 6.1	ツツジ類 7.2	ヤブラン類 5.9	サツキ 3.4	シバザクラ 7.5
5	シバザクラ 5.2	ヒベリカム類 3.9	サツキ 4.9	フッキソウ 3.5	フッキソウ 5.2	ヤブラン類 5.5	シバザクラ 5.9	ツツジ類 5.2	ヤブラン類 2.5	サツキ 4.7
6	フッキソウ 3.3	ササ類 3.8	シバザクラ 4.5	シャリンバイ 3.5	シャリンバイ 3.6	クチナシ類 3.4	フッキソウ 4.6	フッキソウ 2.8	ヘデラ類 2.2	ヒベリカム類 3.5
7	サツキ 1.7	サツキ 2.6	ヒベリカム類 4.0	ヘデラ類 3.2	ヘデラ類 2.8	ボックスウッド 2.7	サツキ 4.5	シバザクラ 1.4	モクセイ類 2.1	ヘデラ類 2.8
8	シャリンバイ 1.6	シバザクラ 2.0	アベリア 2.3	ササ類 2.6	アベリア 2.5	ササ類 2.3	ヘデラ類 3.7	ボックスウッド 1.4	ヒベリカム類 1.9	シャリンバイ 2.6
9	ヘデラ類 1.6	シャリンバイ 1.4	ボックスウッド 1.9	アベリア 2.4	サツキ 2.0	サツキ 1.9	アベリア 2.3	ユキヤナギ 1.3	クチナシ類 1.8	ササ類 1.9
10	ヒベリカム類 1.5	ツゲ類 0.8	ササ類 1.8	クロマツ 2.1	クチナシ類 1.9	ヘデラ類 1.9	ボックスウッド 1.5	アベリア 1.1	クロマツ 1.7	クチナシ類 1.2
上位10種 の割合	83.9	61.0	51.7	65.7	67.7	58.9	61.1	56.6	50.1	70.7

網掛けはグランドカバー類
※ 抵抗性マツを含む

県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは、1986年から県内の植木市場（井堀・矢合・福地〔現在は廃止〕）において、主に地元から出荷される緑化木を中心に現在31品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。

今回は、2025年春期・秋期の取引量の概要を紹介します。

I 春期

1 全体取引量〔図－1〕

今期の全体取引量は約13.3万本で、前年同期（約13.3万本）とほぼ同数で推移しており、前年同期比ほぼ100%となりました。全体取引量は2010年以降減少傾向が続き、2016・2017年にはわずかな増加に転じたものの、再び減少傾向となっています。

2 用途別の取引動向

一般植木の取引量は約5.0万本で、前年同期（約4.9万本）より約0.1万本増加しました。自然形ではカエデ類が多く、続いてシマトネリコ、キンモクセイ、ヤマボウシで前年からシマトネリコが減少し、カエデ類、キンモクセイ、ヤマボウシが増加しました。仕立物ではイヌツゲが多く、続いてクロマツ、イヌマキで前年からイヌマキ、クロマツが減少し、イヌツゲが増加しました。

株・玉物の取引量は約6.5万本で、前年同期（約6.7万本）より約0.2万本減少しました。主要樹種はサツキで、ドウダンツツジ、ツツジ類が続いています。生垣用樹は約1.7万本で、前年同期（約1.7万本）とほぼ同数でした。取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、両種で全体の約87%の取引量となりました。

3 取引量上位の動き〔表－1〕

調査対象の取引量の上位10品目について、前年同期はサツキとオタフクナンテンが上位を占めていましたが、今期はオタフクナンテンにかわり、ドウダンツツジ、カエデ類が順位を上げ、一方、オタフクナンテン、シマトネリコは順位を下げました。

II 秋期

1 全体取引量〔図－2〕

今期の全体取引量は約7.3万本で、前年同期（約7.8万本）より約0.5万本減少しました。全体取引量は2008年以降減少傾向で、前期の取引量は2008年に比べると約29%まで減少し、今期も減少傾向です。

2 用途別の取引動向

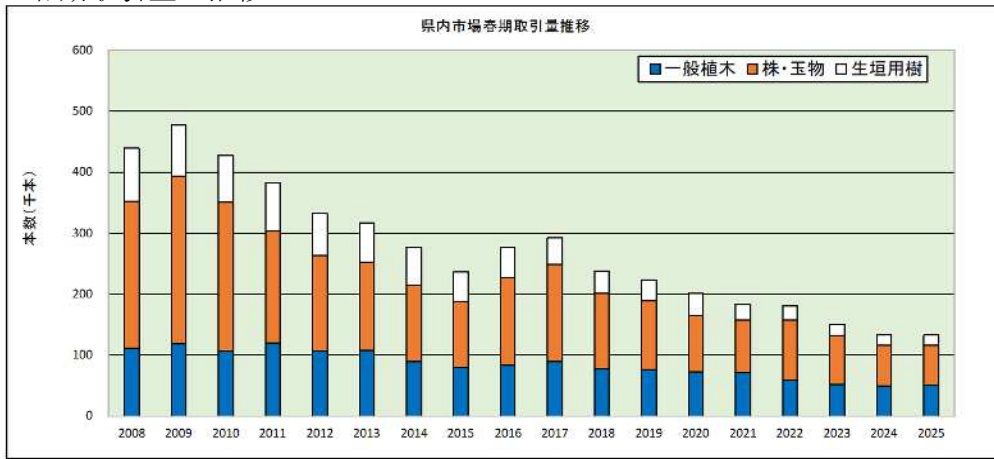
一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約2.6万本で、前年同期（約3.2万本）より約0.6万本減少しました。自然形では、シマトネリコ、ヤマボウシ、カエデ類、キンモクセイが多く、前年からシマトネリコ、カエデ類、キンモクセイは減少しました。仕立物では、クロマツ、ウバメガシが増加したものの、イヌツゲ、イヌマキ、キャラボクの取引数量は低調のままです。

株・玉物の取引量は約3.8万本で、前年同期（約3.2万本）より0.6万本増加しました。株・玉物の大半を占めるオタフクナンテン、サツキが増加し、ツツジ類、ドウダンツツジ、イヌツゲは減少しました。生垣用樹の取引量は約0.9万本で、前年同期（約1.4万本）より約0.5万本減少しました。生垣の主要樹種であるサザンカ、マサキは前年より減少し、イヌマキは増加し

3 取引量上位の動き〔表－2〕

調査対象の取引量の上位10品目では、オタフクナンテン、サツキ、シマトネリコが上位を占めており、イヌマキ（生）、ヤマボウシが続いています。オタフクナンテン、サツキ、ヤマボウシの取扱量が前年より大幅に増加し、一方、サザンカ、ソヨゴの取扱量が大幅に減少し順位を下げており、全体的には低調のままです。

図－1 春期取引量の推移

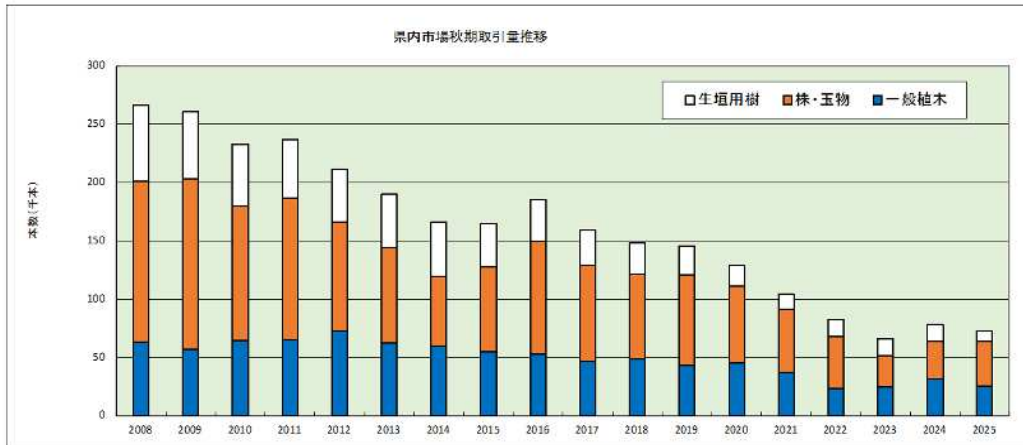


表－1 春期取引量上位10品目の動き

順位	2023			2024			2025		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	ツツジ類	株	↘	オタフクナンテン	株	...	ドウダンツツジ	株	↑
3	サザンカ	生	...	ツツジ類	株	...	カエデ類	—	...
4	カエデ類	—	...	カエデ類	—	...	ツツジ類	株	...
5	ドウダンツツジ	株	...	シマトネリコ	—	...	オタフクナンテン	株	...
6	オタフクナンテン	株	↘	ドウダンツツジ	株	↘	サザンカ	生	...
7	イヌツゲ	株	...	イヌツゲ	株	↘	シマトネリコ	—	...
8	シマトネリコ	—	↓	サザンカ	生	↓	キンモクセイ	—	...
9	ヤマホウシ	—	...	イヌマキ	生	↑	イヌマキ	生	...
10	キンモクセイ	—	↑	キンモクセイ	—	...	ヤマホウシ	—	...

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 — : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

図－2 秋期取引量の推移



表－2 秋期取引量上位10品目の動き

順位	2023			2024			2025		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	オタフクナンテン	株	...	オタフクナンテン	株	...	オタフクナンテン	株	↑
2	サザンカ	生	...	サツキ	株	↗	サツキ	株	↗
3	サツキ	株	↓	サザンカ	生	...	シマトネリコ	—	...
4	キンモクセイ	—	...	シマトネリコ	—	↑	イヌマキ	生	...
5	カエデ類	—	...	カエデ類	—	↗	ヤマホウシ	—	↗
6	ヤマホウシ	—	↑	ソヨゴ	—	↑	サザンカ	生	↓
7	ツツジ類	株	↓	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	↘
8	イヌツゲ	株	↘	ドウダンツツジ	株	↑	ドウダンツツジ	株	↘
9	イヌマキ	生	↗	ヤマホウシ	—	...	キンモクセイ	—	↘
10	シマトネリコ	—	↘	イヌマキ	生	↗	ソヨゴ	—	↓

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 — : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、令和7年度は次の3課題に取り組みました。

- ・老齢化・大木化した緑化木の問題点と管理方法について（R5～R7）
- ・移植が難しい樹種・時期等に対処する方法についての調査（R6～R8）
- ・温暖化による緑化木生産への影響についての調査（R7～R9）

ここでは、令和7年度に終了した成果の概要を紹介します。

老齢化・大木化した緑化木の問題点と管理方法について

調査期間：令和5年度～令和7年度

1 調査目的

緑化木は、植栽してからある程度経過すると、老齢化・大木化して、腐朽、倒木や枝の落下といったリスクが高くなります。また、病気や気象害等の影響を受けやすく、樹形や着花状況が悪くなり、本来の緑化木の役割を果たせなくなることが多くなります。

植木センターでも、開所（昭和61年、1986年）から様々な樹種が植栽されていますが、樹種毎に生育状況が異なっているため、その問題点と管理方法を整理することを目的とします。

2 調査方法

(1) 対象樹木

- ・植木センター内に植栽されている緑化木

(2) 高木の調査（樹形の作り直し）

- ・クスノキ、ヒトツバタゴについて、主幹の2/3の高さで切断、枝の1/2の長さで剪定し、エンジュについては、強風により折れた枝の直下で主幹を切断
- ・切断・剪定後、樹勢の回復状況、病虫害・腐朽の有無を目視（写真）で確認（月1回程度）

(3) 低木の調査（枝葉の更新）

- ・ツツジ、サツキ、コクチナシ、マサキ、トキワマンサクについて、年1～2回程度切り戻し剪定を実施
- ・切り戻し剪定後、樹勢の回復状況、病虫害・腐朽の有無を目視（写真）で確認（月1回程度）

(4) その他調査（枯死木）

- ・植木センター内に植栽されている枯死した樹木の病虫害、腐朽の有無を目視で確認

3 年度別計画

項目／年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1 高木の調査	←	←	→
2 低木の調査	←	←	→
3 問題点と管理方法の検討		←	→
4 とりまとめ			←

4 調査結果

(1) 高木調査 (樹形の作り直し)

a クスノキ



R5. 3. 16



R5. 3. 21 切断・剪定



R7. 12. 23 現在

b ヒトツバタゴ



R5. 3. 16



R5. 3. 16 切断・剪定



R7. 10. 28 現在

c エンジュ



R5. 4. 16枝折れ



R5. 7. 12切断



R7. 10. 28 現在

(2) 低木の調査 (枝葉の更新)



マサキ R7. 6. 17 剪定



トキワマンサク R7. 6. 17剪定



サツキ R7. 6. 17 剪定



ツツジ R7. 6. 16 剪定



コクチナシ R7. 7. 14 剪定

(3) コクチナシの病虫害調査 (ツノロウムシ)



全 景



ツノロウムシの被害状況



すす病の被害状況



すす病の被害状況

(4) マサキの更新管理状況



全 景



近 景

(5) トキワマンサクの更新管理状況



全 景



近 景

(6) 老齢化や大木化して枯死した樹木

年度	樹種	本数	枯死の原因
R5	クロマツ	1	虫害 (マツクイムシ)
	ヒトツバタゴ	1	不明
	ハナミズキ	1	不明
	ギンヨウアカシア	1	不明
	キリ	1	不明
	モミジバスズカケノキ	1	不明
	シダレザクラ	1	不明
計		7	
R6	ベニガシワ	2	虫害 (カミキリ)
	ハシドイ	1	不明
	ハンノキ	1	不明
	ブッドレア	1	不明
計		5	
R7	テルモモ	2	虫害 (クビアカツヤカミキリ)
	サクラ (ソメイヨシノ)	1	危険木 (枝枯れ)
	トチノキ	1	不明
	ブルーアイス	1	不明
	フィリフィアオーレア	1	不明
計		6	
合計		18	

5 問題点

(1) 安全性の低下

樹木の老齢化や大木化により、幹や枝の腐朽が進行しやすくなり、強風、豪雨等による枝折れ、倒木の危険性が高まります。

これにより、公園、道路などの施設周辺では、人身事故や施設被害のリスクが増大します。

(2) 樹形・景観の悪化

樹木の老齢化や大木化により、枝が過密になり、日照不足や風通しが悪くなることにより枝枯れや偏った樹形となり景観が悪化します。

樹木にはそれぞれ、本来の樹形（自然形）があります。例えば、クスノキは大きく広がる樹冠、ツツジやサツキは低くまとまりのある株立ちが特徴です。

コクチナシについては、枝葉が適度に混み合いながらも内部に空間があり、均整の取れた形状が特徴ですが、本調査では枝葉の過密化により内部に空間がなく、不均衡な形状となっており、樹種本来の形態が失われるケースが存在しました。

(3) 病虫害等の被害の発生

樹勢が低下した老齢木は、病虫害の影響を受けやすく、今回の調査ではマツクイムシ、カミキリムシによる被害により枯死した樹種が確認されました。

また、コクチナシについては、ツノロウムシ、すす病の被害も多く確認されました。

6 管理方法の検討

(1) 高木の管理

定期的な樹木点検により、樹勢の低下や枯損した枝があれば早期に剪定をし、幹に病虫害、腐朽が見られる場合は伐採処理をし、必要に応じて更新植栽をすることが必要です。

一般的には、剪定は一度に強剪定を行わず、段階的な樹形の作り直しの実施が望ましいとされています。今回の調査で、クスノキ、ヒトツバタゴ、エンジュの剪定については、一度に強剪定を実施しましたが、樹形及び樹勢の回復が確認されました。

その他、主枝を切り戻すことにより、風害等のリスクを軽減し、安全性を確保することができます。

(2) 低木の管理

切り戻し剪定による更新管理を行い、枝の若返りを図ることが必要です。特に、生垣等の目隠しとしての効果がある樹木については、毎年、同じ高さで切り戻し剪定をされる場合が多く、切り戻した箇所が混み合い、内部の風通しが悪くなり、病虫害の被害にかかりやすくなります。枝の混み合いの解消と、通風を確保するためには、毎年、切り戻す高さを変えて剪定をするとともに、混み合っている箇所の枝の整理が必要です。

その他、樹種ごとの適正な剪定期期を守り、開花や景観に配慮し、定期的な切り戻し剪定により、樹勢の若返りを図ることで、枝葉の更新が進み、形状が安定しやすくなります。

7 まとめ

本調査では、老齢化および大木化が進行した緑化木を対象に、生育状況や剪定後の変化を調査し、その問題点と管理方法について整理しました。その結果、老齢化した樹木は幹や枝の腐朽が進みやすく、強風や降雨時に枝折れや倒木が発生するなど、安全性の低下が大きな課題であることが確認されました。

また、枝の過密化による日照・通風不足は、樹勢の低下や病虫害の発生、樹形の乱れによる景観の悪化につながります。一方で、樹種特性を踏まえた段階的な剪定や更新管理をすることで、樹形の改善や枝葉の健全な再生により、安全性及び景観の向上が図られます。

長期的かつ計画的な緑地管理を行うためには、樹木の状態を定期的に把握し、剪定による維持管理、切り戻し等による更新管理、植替え（植栽）による更新を適切に選択することが重要と考えられます。

【参考】

愛知県植木センターの樹木類の推移

植木センターは、全国有数の生産地を擁する本県の緑化用樹木生産者等の知識と技術の向上を図り、緑化用樹木の生産振興に寄与するため、昭和61年（1986）に設置された。

開所当時のパンフレットによると、木本類83科468種17,016本、草本（地被）類12科32種11,767本となっている。

また、1988年の植木センターの植物目録では、95科564種1005品種（内訳は、木本類（樹木類）83科524種、草本類14科40種）となっている。

現在は、数え方が当時と若干異なるが、生育できなかった種、新たに植栽した種等の変遷がありますが、ほぼ同程度の数量約550種、約24,000本を管理している。植木センター開所から40年を経過し、樹木はかなり大木になり、変化している状況が写真から確認ができる。



写真1（正門、1986年）



写真2（正門、2023年現在）



写真3
（センター上空からの空中写真1986. 6. 7）



写真4（空中写真1991. 9. 25）



写真5（空中写真2003. 9. 30）

第 5 3 回 愛 知 県 緑 化 樹 木 共 進 会

愛知県緑化樹木共進会は、愛知県と愛知県緑化木生産者団体協議会の共催により、生産技術の向上、生産及び需要拡大を目的に、昭和 48 年度から毎年開催しています。

令和 7 年度は仕立物の部、自然形の部、生垣用樹の部、コンテナの部及び育苗ほ場の部の 5 部門で、県内の生産者から総数 149 点の応募があり、県農林水産事務所での予備審査を経た 83 点について本審査を実施しました。

本審査は審査員 7 名により行われ、令和 7 年 11 月 4 日の植木センターでの写真審査の後、11 月 18 日の現地審査を経て、農林水産大臣賞始め 17 賞の配賞を決定しました。

受賞者の表彰は、令和 8 年に開催される愛知県植樹祭の席上で行われます。

○農林水産大臣賞受賞作品の紹介

農林水産大臣賞受賞作品である「ラベンダー」は、放射状に広がる尖ったシルバーグリーンの葉とゴツゴツした幹が人目を引く樹種で、耐暑性、耐寒性に優れ、乾燥にも強く成長が早いため、近年人気があります。

吉田さんは緑化樹木生産と造園業を営む会社で働いた後、新規就農でラベンダーの生産を始め、今年で 8 年目になります。夏の高温に比較的強い「グロッソ」という品種を生産しており、高品質の苗を生産するために、コンテナの土作りに力を入れています。

審査では、近年猛暑が続き、良品生産が難しくなっている中、土作りや栽培管理、品種選択などを工夫し、高品質の商品を生産していることが高く評価されました。



〈受賞作品のラベンダー（グロッソ）と生産者の吉田季正さん〉

○出品部門

※（ ）内は応募数、応募総数 149 点

- ・ 仕 立 物 の 部：自然に育つ姿形から庭園用に整った形に仕立てたもの（8 点）
- ・ 自 然 形 の 部：樹種固有の形を目標として育てたもの（82 点）
- ・ 生 垣 用 樹 の 部：生垣用に育てたもの（4 点）
- ・ コ ン テ ナ の 部：コンテナで栽培したもの（52 点）
- ・ 育 苗 ほ 場 の 部：苗木生産のほ場（3 点）

入 賞 作 品 一 覧

賞 名	部 門	樹 種 名	住 所	氏 名
農林水産大臣賞	コンテナ	ラベンダー(グロツソ)	稲沢市	吉田季正
農林水産省農産局長賞	自然形	ウラジログアシ(株立ち)	西尾市	朝岡直紀
林野庁長官賞	自然形	オウゴンアオダモ	西尾市	稲垣敏信
東海農政局長賞	仕立物	チリメンガシ	西尾市	三治勝裕
中部森林管理局長賞	コンテナ	イヌマキ	豊橋市	黒田時夫
愛知県知事賞	コンテナ	フェイジョア	稲沢市	大崎友和
愛知県議会議長賞	育苗ほ場	オリーブ	西尾市	石川明
愛知県緑化木生産者団体協議会会長賞	仕立物	ラカンマキ	稲沢市	水野隆史
	自然形	ココスヤシ	稲沢市	近藤哲也
	自然形	オリーブ	豊川市	権田真樹
	コンテナ	スズランノキ	西尾市	伊藤順和
	コンテナ	オタフクナンテン	豊橋市	森田裕子
	自然形	リノカレモン	稲沢市	大谷正司
(一社)日本植木協会会長賞	自然形	フィリネズミモチ	稲沢市	山田政勝
(公社)愛知県緑化推進委員会会長賞	生垣用樹	カイヅカイブキ	稲沢市	津坂敏昭
愛知県経済農業協同組合連合会会長賞	コンテナ	シラカシ(株立ち)	豊橋市	白井愛広
(一社)愛知県造園建設業協会会長賞	仕立物	フィリシマトネリコ	稲沢市	伊藤幸一郎

緑化木情報 No. 59

2026年3月発行

発行 愛知県農林基盤局
林務部森林保全課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-961-2111(代表)

内線 3768、3769

052-954-6453(直通)

FAX 052-954-6937